

大 阪 狭 山 市

地域防犯ステーションの設置
～市民主体による取組～

はじめに

大阪狭山市では「市民が起点のまちづくり」を基本理念に、「市民との協働によるまちづくり」「安全・安心のまちづくり」を推進しています。

こうした取組の一つとして、防犯活動の拠点となる地域防犯ステーションの設置を進め、市民ボランティアによる運営を行っています。「気楽に・気楽に・無理せず」「できる人が・できる時間に・できることから」を運営のモットーに市民主体による防犯活動を展開しています。

た。こうして平成18年4月1日からは午前9時から午後10時までの時間を市民ボランティア団体が運営することとなりました。業務内容は常駐により、地域住民が行う防犯パトロール活動への支援、市・黒山警察署との連携による地域安全情報の集約及び発信となっています。実際の業務で一番多いものは目的的地案内で、全体の約9割を占めています。

平成21年度の運営経費は165万円ですが、これは運営費に対する実績払いとなっており、ボランティアの交通実費や関係機関等との連絡調整などの事務に関わる管理運営費となっています。

金剛駅西口地域防犯ステーションの設置

平成17年9月1日から公設民営型としてスタートしたこのステーションは、交番に似た鉄骨造平屋建てで、25人の市民ボランティアが交代で詰めています。床面積は11.78平方メートルでトイレ、空調設備、流し台、電話などを備えています。

○防犯ボランティア団体が管理運営

設置当初半年間は、午前9時から午後6時までは市民ボランティアが常駐し、夜間は警備会社に業務委託していました。しかし、市民との協働によるステーション運営をめざして組織づくりを進めた結果、25人の市民ボランティアの皆さんが市からの要請を受けて運営することになりました。ボランティアの中には市から受注するのは責任が重くなり負担になるのではという声がありましたが、市側の「運営のモットーをベースに無理せず運営を行っていただければ十分です。」というひと言で話し合いがまとまり、実施事業協定書ということで契約が成立しまし

金剛駅西口地域防犯ステーション



小学校の余裕教室等を活用した校区地域防犯ステーションの設置

平成20年2月から学校の安全と地域の安全の両方を守る取組を進めるため、市内にある7つの小学校に校区地域防犯ステーションを設置することを目的に、市と市教育委員会、小学校の3者が呼びかけ、各校区の自治会、防犯支部、青少年指導員、PTA、老人会などにご協力いただき、ステーションを運営できるように話し合いを進めています。話し合いでは、まず「地域防犯ステーションの概要」、「地域防犯ス

「ステーションの設置及び運営」について、校区ごとに直接呼びかけて説明会を行いました。そして、趣旨等に賛同を得た段階で、校区地域防犯ステーションの運営組織立ち上げに向けての「準備会」を開催し、その準備会の中から「自分たちの学校と地域を守り

たい」という強い思いを持った有志が発起人となり、「地域防犯ステーション運営委員会」を発足しました。

その後、同運営委員会において具体的なステーション運営のあり方を話し合い、現在に至っています。

小学校の正門に看板設置



余裕教室を活用したスタッフルーム



地域防犯ステーション開所式



地域防犯ステーション運営委員会会議



○市民主体による運営

平成21年8月末現在で校区地域防犯ステーションが設置されている小学校は、7校中4校となっています。運営は、運営委員会が行い、その構成員は、自治会役員、防犯委員、青少年指導員、PTAなどが中心となって構成されています。運営委員会での重点活動目標は、「登下校時のこどもの見まもり活動」と「安全なまちづくりのための地域見まもり活動」の2つとなっています。市では、校区地域防犯ステーションの活動に、青色回転灯付原動機付自転車（通称青パトバイク）1台、及び青色セーフティライト付電動自転車2台の貸与や運営経費の補助を行い、市内における犯罪発生状況など防犯に関する情報提供などの支援を行っています。

現在、ステーションは防犯活動の拠点として利用され、地域の犯罪情報の交換の場となり、子どもの見まもり活動の連携等を話し合う場になっています。

青色セーフティライト付き電動自転車



青パトバイクの出発式

